

授業科目名 (英文名)	生活経済学 (経済学部・専門教育科目) (Quality of Life and Economics)	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	
担当教員	植野 和文	所属	
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>生活の営みで生じる障害を生活問題、資源環境の中で種々の資源を利用して生活問題を処理する行動を生活行動、そして生活を継起する生活行動の集積として捉える。そのうえで人と資源の関係に注目し、人々がどのように既存の資源を利用し、不足する資源を生産して生活行動を実践しているかを経済学、行動科学、経営学、社会心理学等の理論を援用して、現実の生活に則してモデル化する。そしてモデルに依拠して生活の質を高めることの意味合い、豊かさを実感する方法論について思考を深める。</p>		
講義内容・授業計画	<p>講義内容 はじめに日々の生活が各人の抱える諸問題の処理行動の集積であることを理解する。そして各人と問題処理に用いる資源との関係がどのように決まるのか、さらに処理行動はどのようなメカニズムによって行われるのかを考える。そのうえで生活を豊かにするために人々はどのように行動すべきかを学生自身の生活に則して理解し、実践に必要な方法論を学習する。</p> <p>授業計画 第1回 生活経済学とは何か 第2回 人と資源の関係 (制御権、利害関心) 第3回 資源の分類と環境の概念 第4回 交換の種類とメカニズム 第5回 欲求の種類と性質 第6回 欲求充足のメカニズム 第7回 生活問題の概念 第8回 問題の処理行動 第9回 問題の処理と満足の関係 第10回 行動の動機と計画 第11回 生活状況のモデルと生活満足 第12回 生活行動と時間の役割 第13回 豊かさと時間の関係 第14回 二種類の効用 (過程効用 + 結果効用) 第15回 生活行動と情報の役割 第16回 情報の概念と分類 第17回 情報のタイプと機能 第18回 コミュニケーションの構造 第19回 潜在能力アプローチの特徴 第20回 財、特性、機能の関係 第21回 資源環境と居住環境の概念 第22回 交流能力と居住環境 第23回 居住環境の評価モデル 第23回 生活行動と地域づくり 第24回 地域の概念とその変容 第25回 地域間関係と交流の影響 第26回 地域づくりの概念 第27回 生活行動の公的側面とNPO 第28回 生活行動とイメージの役割 第29回 いくつかの実証研究の紹介 第30回 生活行動と地域づくりとの関係 第31回 評価 (到達度の確認)</p>		
テキスト	テキストは用いず、独自に作成した教材を配布する。		

参考文献	吉川紀夫『生活経済学の考え方』明星大学出版部2003 J・コールマン『社会理論の基礎(上)』青木書店2004 絵所・山崎『アマルティア・センの世界』晃洋書房2005
成績評価の基準・方法	<p>「成績評価の基準」 生活が問題の処理行動の集積であること、我々は資源環境の中で必要な資源を入手し、あるいは生み出して個々の問題を処理していること、資源の入手では近年交流能力（移動、流通、通信）の影響が強まり資源環境の概念が変化していること、そしてこうした理解のうえに自身の生活を豊かにする必要な取り組み（問題の設定、資源の入手と加工、問題の処理）を理論的に見出す能力を習得した者に単位を授与する。</p> <p>「成績評価の方法」 小テスト20%、定期試験60%を基準に受講態度20%を加味して総合的に評価する。</p>
履修上の注意・履修要件	自らの人生設計、日々の生活の問題点、当面の生活目標など自身の生活を見直す良い機会として興味を持つ学生を歓迎する。
実践的教育	「該当しない」
備考	居住環境の評価や交流による生活圏の変化に関する論文をいくつか執筆してきた。